

//2019//

3月13日(水)



Daily Magazine

das SPORTS



発行日/2019年3月13日 (No.023)  
編集・発行所/元氣das編集室  
東京都港区芝公園1-6-7-6 ※内容に関する  
問合せは0120-063711

ATHLETE TV

# '16年9月 ジュニアGP第5戦リュブリャナ杯女子フリー 女子史上世界初

数字が語るアスリートたち



# 6種類8個の トリプルジャンプ を決める

写真:YUTAKA/アフロスポーツ

## 第12回 フィギュアスケート

# 紀平梨花 16歳

### ジュニア時代から天才の片鱗を

'18年のフィギュアスケート・グランプリファイナルで、平昌五輪金メダルのアリーナ・ザギトワとの16歳対決を見事に制した紀平梨花。グランプリファイナル初出場にして初優勝は、日本勢としては'05年の浅田真央以来の快挙。まさに、世界が認めるニューヒロインに一気に躍り出た瞬間だった。

いきなりトップスケーターとしてスポットライトを浴びた印象の紀平だが、ジュニア時代からその存在は広く知れ渡っていた。'16年9月のジュニアGP第5戦リュブリャナ杯では、女子では史上7人目となるトリプルアクセルに成功。同時に女子史上世界初となる、6種類8個のトリプルジャンプを決めて優勝した。このとき、紀平は14歳。世界のメディアが、新たな天才スケーターの出現を驚きをもって伝えた。

### 4回転時代に向けた成長に期待

躍進を続ける紀平だが、一方で課題が残されていることも事実だ。ジュニア時代は、試合により成績が上下することも多く、異なるリンクの状態に適應するのに時間もかかっていた。また、昨年末の全日本選手権では、新調したスケート靴に馴染めず、不安な様子で靴にテープを巻く姿がテレビで報じられた。シニアデビュー1年目も終盤に差し掛かり、「緊張も集中に変えられるようになった」と語る紀平。メンタル面での課題はかなり克服されつつあるように見えるが、16歳という若さは彼女の強みであるとともに、脆さを抱えているともいえるだろう。

プログラムの完成度に加えて、高い芸術性も求められるフィギュアスケート。多くの伸びしろを持った紀平梨花が今後大きく花開くためにも、なによりも彼女自身の成長を待ちたい。

## Profile

プロフィール

### 紀平梨花

きひら りか

2002年7月21日生まれ。兵庫県出身。3歳で初めてスケートに触れ、5歳からスケート教室に通う。2016-17シーズン、ジュニアグランプリシリーズに初参戦。第5戦リュブリャナ杯で優勝。2018-19シーズン、グランプリシリーズデビュー戦となるNHK杯で初優勝。グランプリファイナルでも安定した演技を披露して初優勝。